

令和5年度 市長記者会見 発言要旨

令和5年12月25日(月)開催分

< 開催時間 > 11:00~

< 会場 > 庁議室(市役所本館3階)

< 会見案件 > 西行市長就任にあたって

< 出席者 > 市長、総務部長

< 発表内容 >

【福井市長】

皆さんこんにちは。これからよろしくお願ひいたします。この度、第十七代の福井市長として就任することになりました。今日はたくさんの職員の出迎えを受け、市長である自覚、重責を身にしみて感じています。

北陸新幹線の開業や中部縦貫自動車道が令和8年春に東海北陸自動車道に結節することで、福井の大きな時代の転換になります。これを大交流時代と位置づけることで、人の動きや物の動きをしっかりとらえ、福井の発展に尽くしていきたいと思っています。

訓示の中で、私の想いをビジョンとしてお示しいたしました。本日の記者会見では、その内容についてお話をさせていただきます。

まず1つ目は、まちづくりです。新幹線開業の人の流れを生かし、年間を通じたイベント、四季折々のイベントなどを通じて「福井ならではの楽しいまちづくり」を進めていきます。

また、安全で快適なインフラ、特に道路環境の整備や災害に強い強靱なまちづくり、公共交通の利便性の向上等につきましても取り組んでいきます。

2つ目の「くらし」では、子どもから高齢者に至るまで、男性女性、障害のあるなしにかかわらず、ともに支え合う社会の実現を目指します。また、子どもの政策に関しては、結婚から妊娠・出産・子育て・教育といった長いスパンで、継続的に支えていくことが大切です。こどもまんなか社会の実現に向けて、地域で子育てを見守り支えていくことを目指していきます。ともに支え合い、市民の健康を守り、安全で、安心な、住みよさを感じていただけるまちを目指していきます。

3つ目「しごと」では、農林水産業、商工業、観光など、産業施策を強力に推し進めていきます。園芸産地の再生に向けた支援や市産品の販路拡大、私自身のトップセールスによる企業誘致、産業誘致に取り組んでいきます。また、福井の食や自然、歴史を生かした観光のまちづくりにしっかりと取り組んでいきます。また、一挙に解決はできませんが、担い手不足にもしっかりと取り組んでいきます。

4つ目、「教育」では、希望に満ちた子どもたちの未来や、すべての市民が、生きがいを感じられる学びの場づくりのため、学校の環境や公民館の整備を計画的に進めていきます。

また、ふくい桜マラソン2024について、福井県、坂井市と連携をとりながら、成功に尽くしていきたいと思ひます。

これら4つの柱を実現するため、職員には、市民目線で、わかりやすく丁寧な対応に努めるとともに、DXを進めることで「簡単・便利」な行政手続きを提供していくよう求めてまいります。

財政の面では、健全な財政運営を行い、しっかりとした財政基盤づくりに取り組んでいきます。

また、時代の変化とともに対応できる組織づくり、自由な発想で果敢に挑戦する人材育成にも努めていきます。

100年に1度のこのチャンスに我々としても立ちどまる暇はなく、前進していきたいです。

東村市政が今まで築き上げてきた盤石な基盤を活かしながら職員一体となって力を尽くして参ります。

市民の皆さんに「福井は楽しい!安心!元気!」を実感していただき、市民の皆様一人一人の幸せに繋がる施策に取り組んでいきます。

非常に大掴みではありますが、まちづくり、人づくりにしっかりと取り組んでいきますので、よろしく願いいたします。

< 質疑応答 >

【記者】

10日の当選から間が空いて今回初登庁になりましたが、その間、自分の中で改めて強まってきた思いや大事だと思っていることがあれば教えてください。

【福井市長】

選挙が終わってからというよりも選挙活動中にいろんな方々のご意見やご要望を聞く中で、地域のいろんな問題や課題があることを実感しました。これは、しっかりと話を聞くことでわかることだと思うので、当たり前ではありますが、これからも市民の皆様の声をしっかり聞いていきたいと改めて思いました。

当選後は忙しかったので、ゆっくりと考える時間がありませんでしたが、しっかりとしたビジョンを具体化し、お聞きしたことに取り組んでいくことで、市民の皆様方に私の進める市政を理解していただけるようになるのではないかと考えています。しっかりと取り組んでいかなければならないと、市長としての使命を感じています。

【記者】

就任式で職員の方々に「市民目線」ということを強調して述べていましたが、具体的にはどのように市民の声を聞いていくのでしょうか。

【福井市長】

まずはしっかりと情報発信をすることが非常に大事だと思います。福井市の取組や方針を情報発信することによって、市民の方々からの意見も出てくるだろうと思います。

具体的には私が直接、或いは担当部長、担当課長、現場などで、情報発信の機会を積極的に作る必要があると考えています。選挙期間中に直接いろんな方々にお会いして、これからも積極的にお聞きする機会を作っていきたいと思っています。

【記者】

もうすぐ新年度の予算編成が始まると思います。新幹線開業の年ということで、具体的にどういった施策を新しく打ち出していく予定ですか。

【福井市長】

3月16日に新幹線開業が迫っているので、今まで積み上げてきたことをしっかりと取り組むことがまず大事だと思っています。新しい要素を入れるのはその後になると思います。

大きな事業としては、完成間近の給食センターやクリーンセンター、九頭竜中学校の建設など今取り掛かっている事業をし

っかりとやっていくことが前提になると思います。その上で、私のビジョンに沿って、自分なりの政策をどう実現していくのかは、各担当部局と議論する必要があります。予算化するまで少し時間がかかるとは思いますが、なるべく早く西行カラーの施策を考え、実行していきたいです。

具体的に予算で何を盛り込むかというのは、(市政から)4 か月離れていて、現状の予算がどうなっているのかよくわかっていないので、しっかりとそれを見た上で、最も効果的な方法につなげていきたいと思っています。

その後、私が考えているビジョンをどう実現していくのか、組織もしっかりと考えていきたいので、もう少しお待ちいただきたいです。

【記者】

若手職員の発想やエネルギーを大事にしていきたいとおっしゃっていますが、これまでのチャレンジ未来予算以外に、新しい取組や今ある制度をさらに強化していくという考えでしょうか。

【福井市長】

今、チャレンジみらい予算を予算付けしており、若い職員にやる気を起こさせるという意味では非常に大事です。組織全体で考えつかないような若手の発想で、事業を実現しているという意味では十分効果を果たしていると思うので、それを一段とグレードアップしたいと思っています。今は単年度で予算化していますが、単年度ではなく、長期に渡るプロジェクトや部署をまたぐプロジェクトに取り組んでもらいたいと考えています。

これまでも若手職員と意見交換なども開催し、直接話をしてきましたが、今後も一緒に取り組んでいきたいと思っています。

【記者】

就任式で、最後締めのお言葉は英語でしたが、国際交流や海外への発信など、国際的な取り組みについてはどんなお考えでしょうか。

【福井市長】

就任式の最後に言った「Let Us Begin」という言葉はケネディ大統領がよく使っていた言葉で、「さあ、みんなと一緒にやりましょう」という意味です。インパクトを職員に与えたいと思い使わせていただきました。

地方も直接世界と通じていく時代だと思います。世界の動きの中で福井市もいろいろな影響を受けており、俗に言うグローバルな人材が国だけではなく、地方都市にも求められていると思います。

具体的な取り組みとしては、姉妹都市の交流やスロベニア共和国との関係を築き上げていきたいです。交流を深めることで福井市にどう影響するかはわかりませんが、少なくとも今、小学校同士で情報交換をしていますし、今はリモートで交流できるので、子どもたち同士の交流を行うことによって、文化の違いや言葉の違いなどを少しでも感じて、興味を持ってもらいたいと思っています。

【記者】

以前、子ども未来部の立ち上げについて、お話があったと思いますが、これについて方針が変わりなければ、目的と立ち上げ時期、またそれに関連した他の組織改編や組織改革の方針について、教えてください。

【福井市長】

子ども未来部の創設については、こどもまんなか社会を標榜していることを、市民の方々にわかりやすい形で示したいという思いがあります。子ども専門の部局を創り、いろんな課で行っている子ども政策を一つにまとめることが大事だと思って

います。各地域を回ったときに、子どもを地域社会で育てている方がたくさんいることを知りました。そういう方を支援していく意味でも子どもに関する政策を実施していることを示し、地域で子どもを育てていく、見守っていくという市民の機運を醸成するため、象徴的に子ども未来部を創っていきたいと思っています。

時期については、部局等の設置条例に基づき、議会の承認を得なければならないため、具体的にいつと述べるのは難しいですが、なるべく早くできればと思っています。

子ども未来部の創設は人事異動も伴うことなので、できれば4月1日とは思っていますが、議会の手続きや人事異動のことを整理した上で、繰り返しになりますがなるべく早くやっていきたいと考えています。

【記者】

地域で子どもを育てる方々を支援していきたいというのは、地域でそういった活動をされている組織や団体などを支援する予算を組んでいきたいということですか。

【福井市長】

今も団体に支援はしていますが、具体的にどう支援していくのか、場所の提供なのか、財政的な支援なのか、フードドライブといった物的な支援なのか、これから探っていききたいと思います。いずれにしても、今よりもぐっと前に進めたいと思っています。子どもの居場所づくりや子ども食堂、学習支援など、いろんな形で、地域で子どもを育てているNPOや団体に対して、現状の支援よりもグレードの高い支援をしていきたいです。

これは、私が言う子どもまんなか真ん中社会を作るためには必要なことだと思っています。

【記者】

副市長の登用方針について、時期と1人にするか2人するか決まっていれば教えてください。

【福井市長】

副市長については全く白紙の状態です。基本的には私のビジョンや考え方に賛同してくれる方というのは前提ですが、それに加えて、私に対してきちんと意見が言える人が条件かなと思います。周りの方や議会にも意見を聞いて、なるべく早く決めたいと思っています。

【記者】

西行市長に対してしっかりものを言える方というと、外部登用というお考えもあるのでしょうか。

【福井市長】

副市長の定員は2名ですが、1人にするのか2人にするのか、外部登用にするのか内部からにするのかは全く白紙です。繰り返しになりますが、頭の中に求める人物像はあっても、誰とは決まっていないのが現状です。

【記者】

意見を言える方なら内部の方でも問題ないということでしょうか？

【福井市長】

私の考えや政策をしっかりと理解して支持してくれた上で、私に意見を言える方がいいと思っています。

【記者】

副市長登用の時期はいつごろを予定していますか。

【福井市長】

できるだけ早く決めたいと思います。

【記者】

もうすぐ年末年始ですが、市長に就任して初めて迎える年末年始はどう過ごしたいですか。気持ちの面でも行動の面でもいいので、何か考えていることはありますか。

【福井市長】

年末年始をどう過ごすかは全く考えていません。副市長分の公務もあるので、それしっかりとこなしていきたいなと思っています。市長になったから新たにこういうことをしたいというよりも、やらなければいけないことをしっかりとやっていきたいと思っています。

【記者】

ゆっくり過ごすわけにはいかなさそうですか。

【福井市長】

そうですね。結構日程が入っているので、頑張りたいと思います。